

# 中部人懇通信 No.4

学級担任  
対象

平成28年9月27日（火）に、ほくほくプラザ（北栄人権文化センター）で学級担任を対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

## 現地研修オリエンテーション 講師 北栄町生涯学習課人権教育推進員 堀江純子さん

### 《講師のお話より》

- この地区では、関係者が納得のいくまで話し合い、同和対策事業を進めてきた。
- 部落差別をなくするには、自分たちが変わっていかねばならないと考え、「おかしい」「間違っている」と言える力を付けるため学習の機会を設けてきた。
- 「同和教育交流研修会」では、参加した人の実になるような研修にしたいという思いの中から、「全市民の取組とするため全公民館から参加」「地区内の施設で地区の人たちと意見交換・交流」「偏見をなくすために、お互い顔を見合わせて直接話し合う」「受け入れ側も全員で対応する」という形で行ってきた。
- 同和対策事業で、生活環境などの「差別の結果」は改善された。「格差」がなくなったが、「差別」がなくなったわけではない。差別をなくするために、まず、差別の現実や人権尊重の町づくりの取組などを「知る」ことが大切である。
- 同和教育が掲げてきた「目の前の子どもと向き合うこと」や「一人一人を大切にすること」は、現在の人権教育につながっている。その子の背景にあるもの、その子の抱えている課題、親の願い、地域の課題を知り、人権教育に取り組んでいってほしい。



## 現地研修 講師 北栄町生涯学習課 課長 杉本裕史さん 人権教育推進員 堀江純子さん ほくほくプラザ 館長 中江人美さん

- 講師の先生方からお話を伺いながら、フィールドワークを行いました。実際に現地を歩くことで、オリエンテーションでお話いただいた地域の方々の取組や同和対策事業の成果について実感するとともに、講師の先生方の思いを感じることができる貴重な機会となりました。



## グループ協議 「現地研修で学んだことをどのように生かすのか」

- 現地研修の感想を交流し、取組の振り返りや今後の取組で生かしていくことを話し合いました。「同和問題に向き合える教師になるために、自分自身が正しい知識をもち、学び続けていかなければならない」「これから社会に出て、県外で生活するかも知れない子ども達が、差別に立ち向かうことができるようにという意識で、学習を進めたい」「学校における学びの差をなくすためにも、中学校区で同じ方向性をもち、取組を工夫していきたい」など、意見が交わされました。

## 【参加者の感想より】

- フィールドワークでは、同和対策事業の成果を感じるとともに、当時の苦労や地域の団結力、環境改善への思いを感じることができた。
- 様々な立場の方と一緒に話すことができ、他校種・他市町の方の問題意識や現在の取組の様子について聞くことができたことが良かった。
- 同和対策事業で環境は整備されたが、「人々の意識」というものを変えていくことが、今後も必要だと感じた。
- 差別を「見抜く力」「語る力」を付けていかなければならないと改めて強く感じた。事象ではなく、その背景をしっかりと見られるようにしていかなければならないと思う。



## 【まとめ】

講師の先生のお話の中で、地域の方々の「関係者が納得のいくまで話し合う」「全市民の取組とするために全員で対応する」という取組に地域の団結力を感じました。また、フィールドワークを通して、地区の人々の差別解消に向けた思いを実感することができました。

「同和教育で培われてきた原則を人権教育の基底に位置づける」（鳥取県人権教育基本方針）ということを確認するとともに、現地研修会で学んだ「差別の現実」や「現在の取組」、グループ協議での学びを今後の実践に生かしていただきたいと思います。